

平成31年度 施政方針



まちづくりの基本方針

都市環境分野

都市と自然が織りなす
住みよいまちづくり

教育文化分野

生きる力を育み生きる
喜びを実感できるまち
づくり

産業振興分野

人と技術で賑わいを創
り笑顔で働き続けられ
るまちづくり

福祉安全分野

支えあいみんなが元気で
安心して暮らせるまちづ
くり

計画推進分野

市民と行政の信頼と協働
で築くまちづくり



刈谷市長
竹中良則

平成の時代も残すところあとわずかとなりました。バブル景気の中で始まった平成は、しばらくしてバブル崩壊を契機に「失われた20年」と言われる経済の停滞期に入り、リーマンショックに端を発した世界的な不況にも直面しました。また、阪神淡路大震災や東日本大震災に代表される災害の発生や冷戦の終結とグローバル化の進展、インターネットの普及に伴う高度情報化社会の到来など、大きく社会経済情勢が変動した時代でありました。

本市に目を向けますと、刈谷駅南北連絡通路が、改元して間もない平成元年1月25日に開通しました。当時の人口は約11万6千人でしたが、今では15万人を超え、変動する社会の中にあっても大きく飛躍した30年となりました。これもひとえに、市民の皆さまのご理解とご協力、先人の方々のたゆまぬ努力の賜物であると感じ申し上げる次第であります。

本年度は、新しい時代の幕開けとなります。本市におきましては、3月24日に歴史博物館がオープンいたしました。オープニングを飾る「初代刈谷藩主・水野勝成展」をはじめ、魅力的な企画展を開催することで、本市の歴史や文化を市内外に発信し、ふるさと刈谷への愛着や誇りを醸成してまいります。さらに、刈谷スマートインターチェンジの設置や刈谷駅周辺の整備を進めるなど、まちの魅力と風格を一層高めていくことで、来たるべき新時代においても、市民の皆さまに愛され、誇りに思ってもらえるまちであり続けられるよう取り組んでまいります。

本市の人口は増加傾向で推移しておりますが、全国的には人口減少が始まっており、少子化と相まって超高齢社会が到来するなど、自治体経営にとって困難な時代を迎えております。そのような中であっても、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らし、元気に活躍し続けることのできるまちづくりを進めてまいります。そして、将来にわたり発展を続けることができるよう、50年先、100年先と時代の先を見通す視点を大切に、本市の将来都市像である「人が輝く 安心快適な産業文化都市」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。